

本年度重点目標	評価指標	判定基準	集計結果	評価	分析(成果)(課題と改善策)	
学びが楽しい学校づくり	<p>【学びが楽しい学校づくり】 体験活動や学び合いを充実させ、学習への意欲の向上と自己肯定感を高める。</p>	<p>(児童アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない (保護者アンケート) 「子どもは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。イ おおむね意欲的に登校している。 ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。</p>	<p>児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下</p>	<p>(児童アンケートの結果) 93.5% (保護者アンケートの結果) 96.1%</p>	A	<p>(成果) 児童アンケートで、肯定的な回答の割合が低学年は100%と高く、学校で学ぶことを楽しいと感じている。高学年においても88%と高く、とても意欲的であると感じられる。保護者アンケートからも同様の結果が出ていることから、ほぼ学校に対する評価は高いと思われる。 (課題・改善点) 児童アンケートから「先生は私たちの思いを聞いてくれる」や「勉強や運動で頑張ったことを、先生はほめてくれる」の項目で高い評価が見られるように、児童が学校へ来ることを楽しみにしていることが影響を与えていると思われる。さらに児童の学力向上をめざし、教職員が一丸となって児童一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導をしていくことが、より学ぶことの楽しさにつながっていくと思われる。</p>
	基礎・基本の定着と学力向上	<p>【主体的に課題解決する児童の育成】(学校研究) 主体的に学び、課題解決へとつなげることができる児童を育成する。</p>	<p>(児童アンケート) 「単元で学んだことを、他の課題に生かすことができましたか。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (教職員アンケート) 「単元の中で、児童は、課題を見つけていましたか。」 ア 見つけていた イ だいたい見つけていた ウ あまり見つけていなかった エ 見つけていなかった</p>	<p>児童アンケート・教職員アンケート A(児・教)ア+イが90%以上 B(児・教)ア+イが80%以上 C(児・教)ア+イが70%以上 D それ以下</p>	<p>(児童アンケートの結果) 児童 ア+イで 88% (職員アンケートの結果) 教職員 ア+イで 100%</p>	B
<p>【家庭学習の確立】 保護者と連携し、子どもたちの学習習慣を確立する。</p>		<p>(家庭学習調査結果) 家庭学習強化週間記録カードをもとにした、家庭学習の目標(低学年20分・中学年40分・高学年60分以上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満</p>	<p>A…ア B…イ C…ウ D…エ</p>	<p>(家庭学習強化週間記録カードの結果) 目標時間達成者は55名で71.4% 低24/26 中17/26 高14/23</p>	B	<p>(成果) 低学年では92.3%、中学年では65.3%、高学年では60.8%の達成率であった。低学年では、高い達成率となっていた。家庭の協力を得ながら、家庭学習の習慣づけがされつつある。引き続き、家庭学習習慣の形成を家庭と共に進めていく。 (課題・改善点) 低学年と比較すると、中・高学年の達成率下がっている。低学年からの指導の積み重ねはあるが、保護者の手が少しずつ離れてきたときに、家庭学習の習慣が崩れがちである。家庭での声掛けを継続してもらおうよう保護者に伝えていくとともに、学年に応じた家庭学習時間に取り組めるよう宿題の種類や量を調節していく。</p>
健康で心豊かな人間性の育成	<p>【道徳教育の充実】 自分を見つめ相手の立場を考え、仲良く助け合う児童を育成する。 (道徳の授業→道徳の授業では、振り返りを書いて、ノートに貼っている。)</p>	<p>(児童アンケート) 「人が困っているときは、進んで助けている。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない (職員アンケート) 「道徳の授業では、殆どの時間振り返りを書いていく。」 ア 9割以上行っている イ 9割未満</p>	<p>児童・職員アンケートで A…児ア+イが90%以上かつ職アが100% B…児ア+イが80%以上かつ職ア90%以上 C…児ア+イが70%以上かつ職アが80%以上 D…それ以下</p>	<p>(児童アンケートの結果) 児童 ア+イで 92% (職員アンケートの結果) 職員 ア 100%</p>	A	<p>(成果) 児童アンケートでは、肯定的な意見が9割以上であった。「人が困っていたら助ける」ということに関して、道徳の授業だけでなく、他教科、行事や日常生活の中で繰り返し指導してきた結果だと考えられる。 道徳の授業一時間一時間で振り返りを行い、その授業で考えたことや自らの生き方について見つめ直すことを、どの学年でも行うことができていることも児童の道徳性を育むことにつながっている。 (課題) 児童アンケートで、「進んで助けている」と回答している児童が9割以上であるが、まだまだ日常生活の中で助け合いができていない場面も見られる。授業だけでなく、日常の助け合いが必要な些細な場面を取り上げ、児童にどのような行動が望ましいの考えさせていきたい。</p>
	<p>【規範意識を高める】 社会的なルールやきまりを守る意識を高め、いじめや暴力行為のない学校をつくる。</p>	<p>(達成目標) (保護者アンケート) 「学校は、いじめや暴力行為のない学校づくりに努めていると思いますか。」 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ あまり思わない エ 思わない (児童アンケート) 「児童会生活目標が守れましたか。」 ア できた イ どちらかといえばできた ウ あまりできなかった エ できなかった</p>	<p>児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが95%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが65%以上 D…それ以下</p>	<p>(児童アンケートの結果) 児童 ア+イで 96% (保護者アンケートの結果) 保護者 ア+イで 97%</p>	A	<p>(成果) いじめに関わる毎月のアンケートや各種アンケート、さらにその結果に応じたきめ細やかな対応を行った。毎月の児童理解の会では、気になる児童の情報を全体で共有し、いじめや不登校の未然防止に取り組んでいる。7月には生活委員会主催による「いじめ撲滅集会」が行った。児童の中に、いじめをなくそう・いじめは絶対に許さないという意識を今後も育てていきたい。 (課題・改善点) 高学年児童を中心に、生活委員会が提案する、児童会生活目標を意識して生活している児童が増えてきている。目標を意識できたかどうか自分を振り返る時間を少しでもとれるよう工夫していきたい。また、生活が「よりよくなった」という実感を持たせる工夫を委員会活動で取り入れていきたい。</p>

